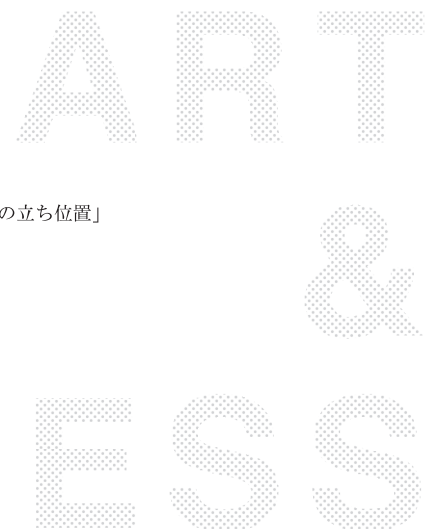


美学への挑戦

—アートプラクティスの現場と「公共性」—

スケジュール

14:00	開会あいさつ 企画趣旨	松尾 大 (美学・藝術論研究会会長・東京藝術大学) 長田謙一 (総合司会・首都大学東京)
14:10-15:30	<報告>	
14:10	椎原伸博 (実践女子大学)	「『新しい公共性』と芸術」
14:30	藤原えりみ (美術評論家)	「パブリックな場とは何か」
14:50	神野真吾 (千葉大学)	「自己表現と公共性の間—アートプロジェクト、美術教育の立ち位置」
15:10	林 卓行 (玉川大学)	「芸術批評とその公共性」
15:30-15:45	<休憩>	
15:45-17:30	<討議>	司会：田尻真理子 (東京純心女子大学)
17:30	閉会	
18:00	クロージング・パーティー (別会場)	



報告者：

椎原 伸博 (実践女子大学・教授 1960年千葉県生まれ)

「公共空間におけるデザイン」小田部・山田編『デザインのオントロジー—倫理学と美学の交響』所収 (ナカニシヤ出版)、「フランスの文化政策の側面—FRAC(地域圏における現代美術のための基金)を巡って—」(『アートマネジメント研究』第7号)、「ポストフォーティズム時代における芸術」(2001-2003年度科学研究費補助金報告書)、「君はヒロシマで何を見なかったか」について—ヒロシマで何を語ることが可能なのか—(『環境美学—アイステーシスの理 美的文化と環境 21世紀における環境美学の視点から』(2002-2004年度 科学研究費補助金研究成果報告書)、「インデックスとしてのパブリックアート」(『メタ環境としての都市芸術』所収)

林 卓行 (玉川大学・准教授 1969年生まれ)

『ウォーホル (西洋絵画の巨匠 9)』(小学館)、『印象派美術館』(共著) (小学館)、『西洋絵画名作 101選』(共著) (小学館)、「(リアルな芸術)のありか」(藤枝晃雄(編)『現代芸術論』武蔵野美術大学出版局)、「迂回路を探索：(スペクタクル)から(コンセプチュアル・アート)へ、あるいは(アートワールド)—(公共圏)の交通(不)可能性にかんする覚え書き」(H14-16年度科学研究費補助金[基盤研究(A)](I))研究成果報告書「描くことの半透性：ゲルハルト・リヒターをめぐる」(カリスタ/4)、「同一性のかたち：ドナルド・ジャッドの芸術について」(『美学 45/41])

藤原 えりみ (美術ジャーナリスト 山梨県生まれ)

雑誌『みつゑ』編集スタッフを経て、単行本・雑誌の編集、翻訳などに携わる。著書に『西洋絵画のひみつ』(朝日出版社)。共著に『西洋美術館』『週刊美術館』(小学館)、『現代アート事典』(美術出版社)、『美術の常識』『美術の知識』(美術出版社)；訳書にH・リード『近代彫刻史』(言叢社)、C・グルー『都市空間の芸術』(鹿島出版会)、R・アスコット『アート&テレマティクス』(NTT出版)、M・ケンプ『レオナルド・ダ・ヴィンチ』(大月書店)、C・フリーランド『でも、これがアートなの?』(ブリュッケ)など。

司会：

田尻 真理子 (東京純心女子大学・准教授)

ネリー・ナウマン(共訳)『哭きいさる神ササノオ生と死の日本神話像』、H・H・アーナソン『現代芸術の歴史』(共訳) (美術出版社)、『西洋美術におけるヘレニズムとヘブライズム』(東信堂)、現代芸術年表I『講座 20世紀の美術 3』(岩波書店)、現代美術年表II『講座 20世紀の美術 8』(岩波書店)『転換点としての美術史の「危機」』(『芸術理論の現在』東信堂)、『脱境界時代のヴィジュアル・カルチャーと都市：ヴィジュアル・カルチャーのアクチュアリティ』(メタ環境としての都市芸術-環境美学研究)、『越境』するベンヤミン：「アソビノ相ノ下ニ」(sub specie ludi)ベンヤミンを見ること(あそび文化研究 創刊準備号)、『美的距離について』(『美学』42/2)など。

神野 真吾 (千葉大学・准教授 1968年千葉県生まれ)

『はないばら 秘められた美へ』(千葉市美術館)、「美術という文化を組み換える主体となること」(『形 Forme』)、「日本人は美術とのリアルな関係を築けるだろうか」(『REAR』21)、「危機の時代とアート」『講座哲学第7巻 芸術/創造性の哲学』(岩波書店)、「知性と芸術、時間をめぐって ベルクソン・ボイス・川俣」(『美育文化 57-3』)、「世界の「タカシムラカミ」と村上隆の「日本」—傾向と対策が生んだ、成功と限界—」(『大学美術教育学会誌第38号』)、「美術」と「美術教育」の距離—近代以降の展開を辿って—(『美術教育学 27号』)、「ボール・ホリウチ—シアトルに渡った日本の感性—」(山梨県立美術館)、『新版 日本の美術』(山梨県立美術館)

総合司会：

長田 謙一 (首都大学東京・教授 1948年東京生まれ)

編/著書：『戦争と表象/美術』『日本近代デザイン史』『歴史展示のメッセージ』『斎藤佳三』等、展覧会図録：『美の国』NIPPONとその実現の夢—民芸運動と「新体制」(『カリスタ』)『チゼック』『bauhaus1919-1933』『イギリス工芸運動と濱田庄司』『ダンス!』等、論文：「原田直次郎『騎龍観音』における「帝国日本」の寓意」(『美術史』)、「閉鎖後のパウハウス」(『ドイツ研究』)、「Koga Haru's Sea (1929) and "Soluble Fish"」(『AESTHETICS』)、「<美術/教育>の扉を開く」(『美育文化』連載中)等、科研基盤(B)(1)「(美術)展示空間の成立・変容」研究代表者、科研基盤(B)(1)「プロバガンダと芸術」研究代表者。

お問い合わせ

美学・藝術論研究会 事務局

東京藝術大学 美術学部芸術学科 美学研究室内

東京都台東区上野公園12-8

電話：050-5525-2250 (内 3820)

会場アクセス

首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13

(秋葉原ダイビル12階)

電話：03-5294-0250

JR山手線、京浜東北線、総武線「秋葉原駅」から徒歩約1分

つくばエクスプレス「秋葉原駅」から徒歩約2分

